

各地区情報

▼北海道

札幌市白石区の歴史を歩く

越野 義貴(HBC)

北海道民放クラブの第84回「歩く会」は、札幌のミニ歴史探訪第19弾「えつ?レンガは江別ではなく白石だったの」と題して、8月30日に開催されました。

北海道では「煉瓦は江別が大産地」との認識ですが、煉瓦発祥の地は札幌市白石区である史実を探る事を端緒に、地区の歴史を探訪するウォーキングでした。



ストーブのモニュメント



後ろに土管の墓標が見える

まずはJR白石駅直近、平和通5丁目の「やなぎ公園」から。実はここが白石煉瓦発祥の鈴木煉瓦製造場の分工場と社長宅の跡なのです。

後に2代目社長の娘婿が、北海道の暖房の歴史の一端を担った「福祿ストーブ」を開発したこと、この公園にはそれを顕彰して煉瓦やストーブのモニュメントが置かれています。

続いて、この工場の職人・野田荒吉氏が身内の供養のために製作した、珍しい土管製の墓標が残

されている「白石本通墓地」を訪れて、当時の様子を偲びました。

三番手は、本通14丁目北に鎮座する「白石神社」。明治5年、北海道神宮の旧社殿を現地に移設した由緒ある神社で、過去には三日の初詣の参拝客数が、道内で北海道神宮に次ぐ2番目を記録したこともあるそうです。

断層になった崖下「御神苑・神寄谷」には「白石龍宮神社」「白石伏見稻荷社」「白石天神社」「白石辨天神社」の4社がそれぞれ祀られているほか、白石村の開墾に携わった「白石村開拓者の碑」等のモニュメントも設置されています。

ここで特筆すべきは、龍宮神社には以前、こんこんと湧き出る霊泉があったということでしょう。現在は枯渇寸前で水質も低下して飲用に適さなくなったため、泉源は閉鎖されています。

ここでも往時の開拓時代の様子を偲び、最後は、かつては地元の一大大商店街だった本郷通を散策しました。

沿道の本郷商店街は、住宅地の開拓より前に商店街が形成されたというちよつと変わった経緯を持ち、1964年に商店街の組

合が結成されて以来、さらに地元の強い絆で結ばれてきた地域です。

全盛期には本郷通6丁目から13丁目まで、それこそありとあらゆる業種の店が軒を並べており、筆者の学友宅が経営する商店も数多く見られたのですが、現在では残念ながら櫛の歯が抜けた状況の中、6丁目から9丁目までが僅かにその面影を留めているに過ぎません。

ここでも華やかなりし時代を偲んだあと、直近のアサヒビール園で恒例の会食。出来たてのスーパードライと食べ放題の成吉思汗(ジンギスカン)に舌鼓を打ち、和気藹々の中で散会となりました。



できたてのスーパードライに舌鼓